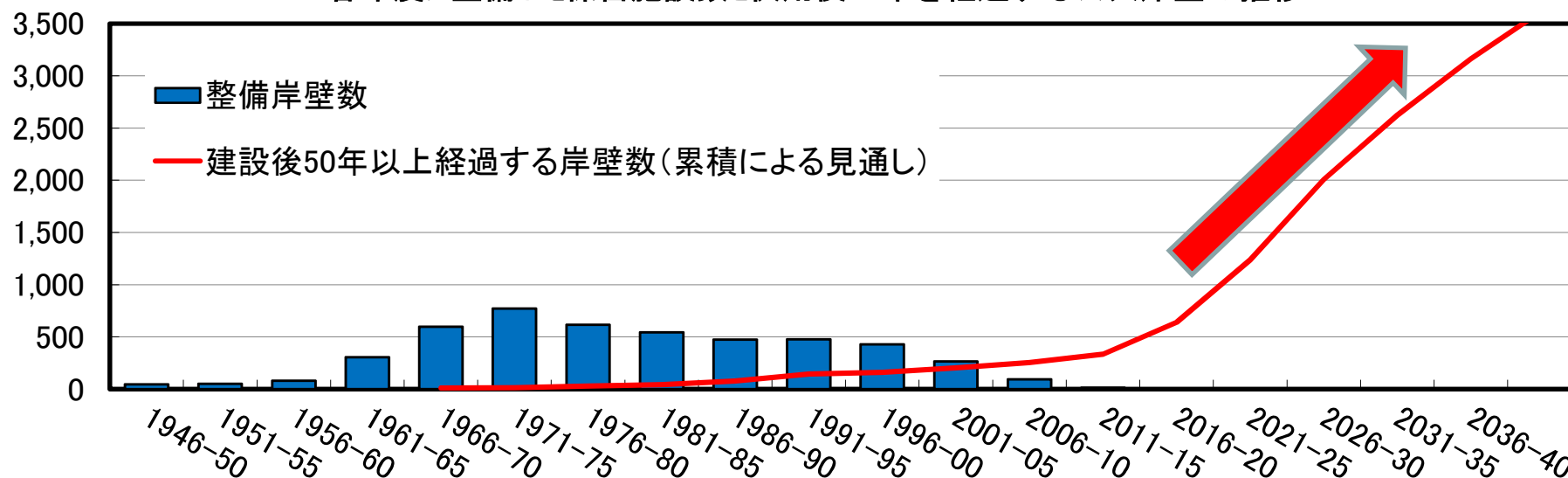


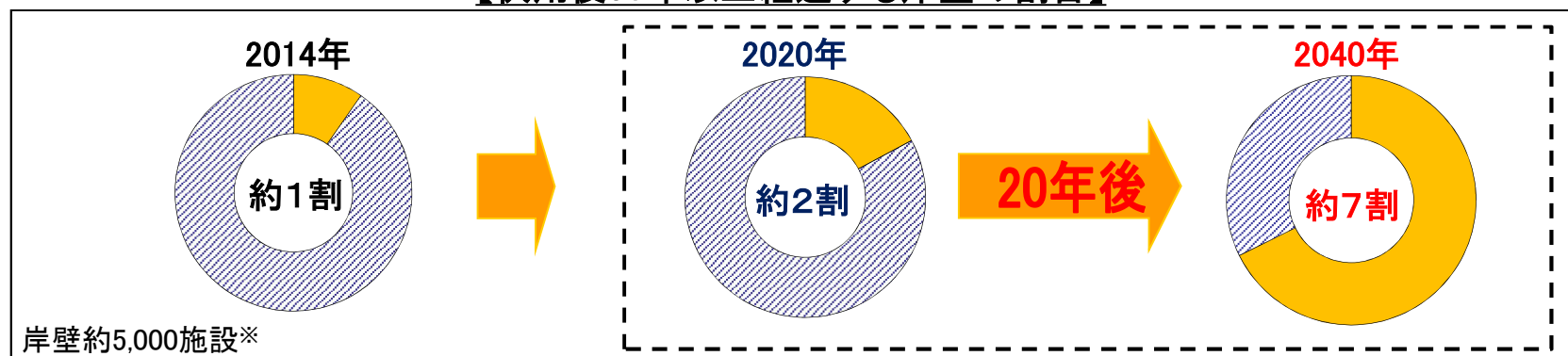
1. 港湾施設の現状

- 着実なストック整備の一方で、高度経済成長期に集中的に整備した施設の老朽化が進行。
- 港湾の基幹的役割を果たす係留施設では、供用後50年以上を経過する施設が2014年の約1割から、2040年には約7割に急増。

各年度に整備した係留施設数と供用後50年を経過する公共岸壁の推移



【供用後50年以上経過する岸壁の割合】



※国際戦略港湾、国際拠点港湾、重要港湾、地方港湾の公共岸壁数(水深4.5m以深):国土交通省港湾局調べ

港湾施設の劣化・損傷事例(1)

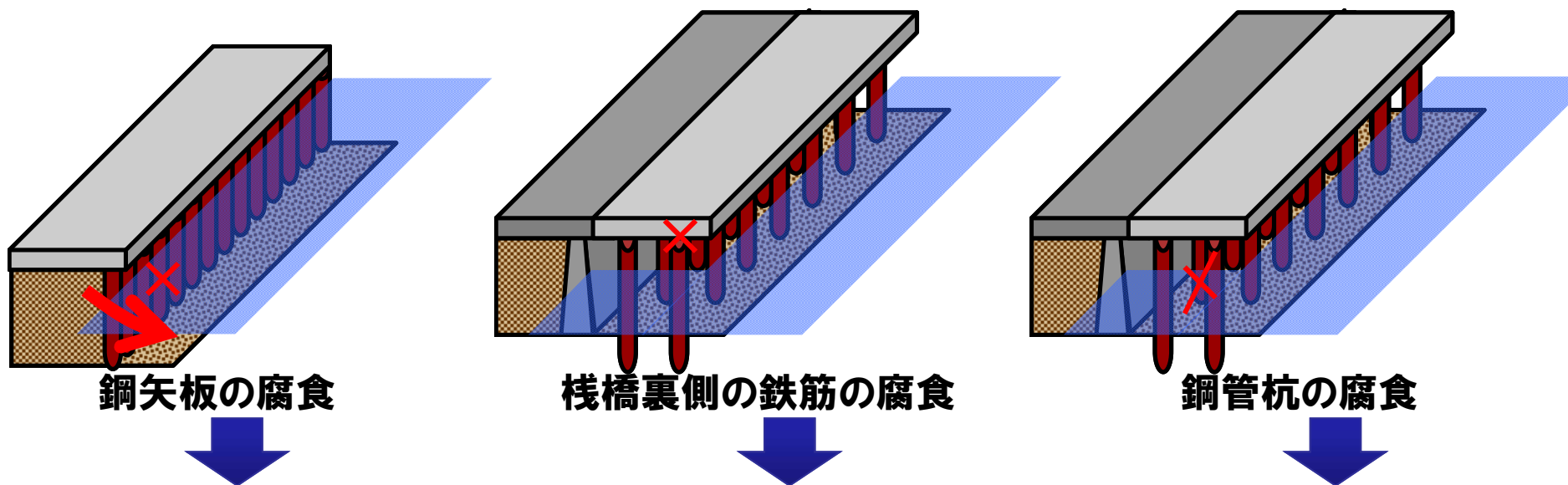
- 港湾の施設は、塩害などの厳しい環境下におかれることや、海中部等目視では容易に劣化・損傷状況を把握できない部分も多い。
- このため、海中部の鋼矢板や鋼管杭、棧橋床板の裏側などの劣化・損傷が見逃され、大事故に繋がりかねない事態も発生しているため、適切な維持管理による安全・安心の確保が重要。

劣化・損傷による事故事例



※H26.10の潜水調査により土砂流出が確認されていたため、事前に利用及び立入りを禁止していた例。

1. 港湾施設の現状
港湾施設の劣化・損傷事例(2)



裏込め土の吸出しによる
エプロンの陥没



鉄筋の腐食の進行による
コンクリートの剥離



鋼管杭の腐食の進行による
杭の破断

いつ大事故が起きてもおかしくない状況へ

1. 港湾施設の現状
港湾施設の劣化・損傷事例(3)



栈橋床版下面鉄筋露出(50年経過) 腐食による 鋼矢板開孔(44年経過) 上部工欠損(37年経過)



栈橋脚柱部鉄筋露出(48年経過) エプロンひび割れ、剥離(34年経過) 上部工割れ(43年経過)

注)写真及び経過年数は2012年当時